



繪本忠臣藏
 後九
 篇

中村進午文庫
 文庫 5
 702
 19



507
81

繪本忠臣藏後篇卷之九

繪本忠臣藏後篇卷之九

目錄

- 小野之氏 酖風流。附夫婦贈答和歌
- 遠森祐右衛門之像
- 遠森以孝被称。遠森母臨別與白衣因
- 大星力弥之像
- 力弥能守道君父之際
- 力彌殉義諸士強臆始見
- 力彌竊罰救野兄弟。同四。其二
- 力彌慕母還被擧

早稲田大学
圖書館藏書

所屬 108
IV
14
9
改

所屬 108
IV
14
9
改

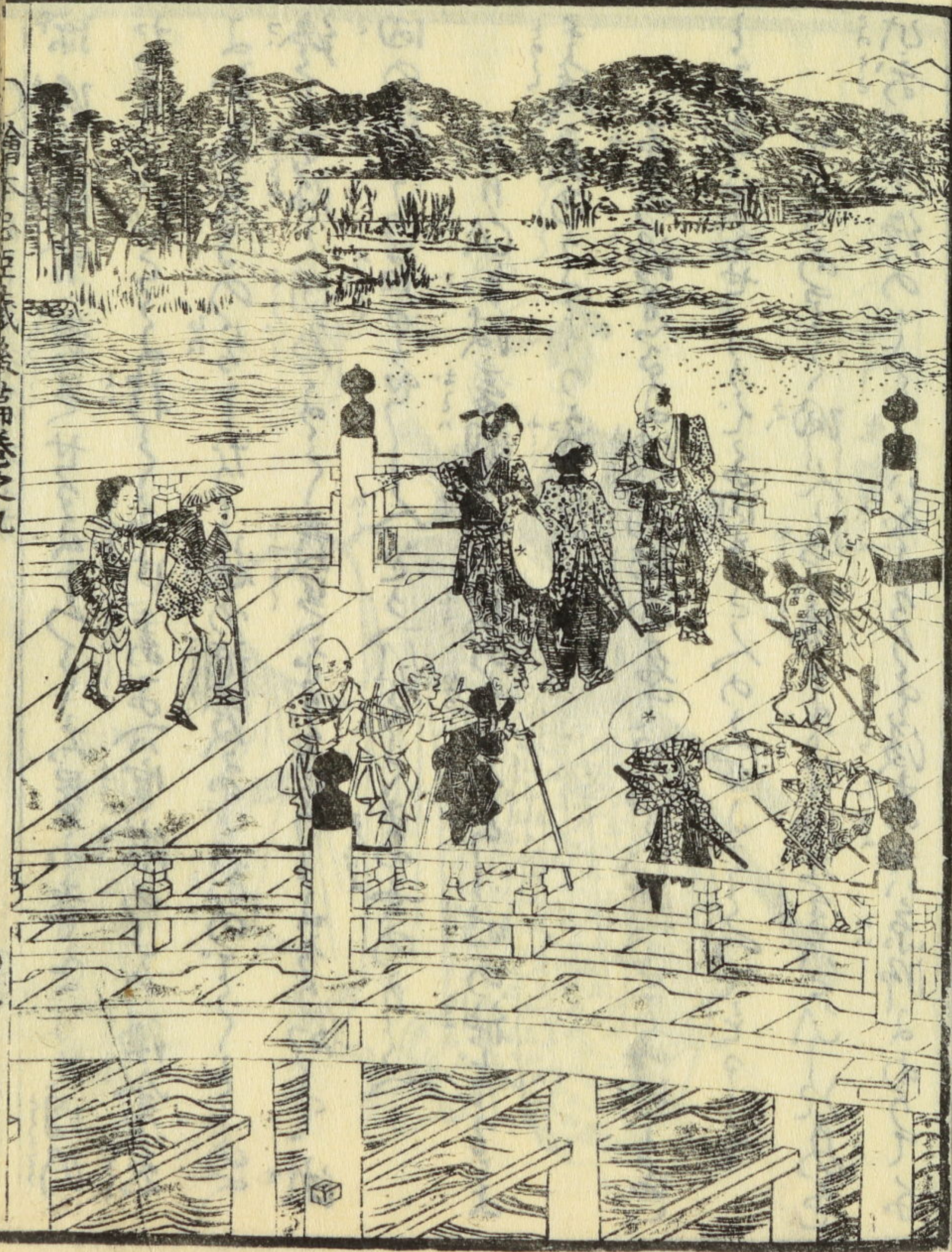
昭和五年一月十日
中村天氏贈

昭和三年十一月二十七日
法學部研究室より移管

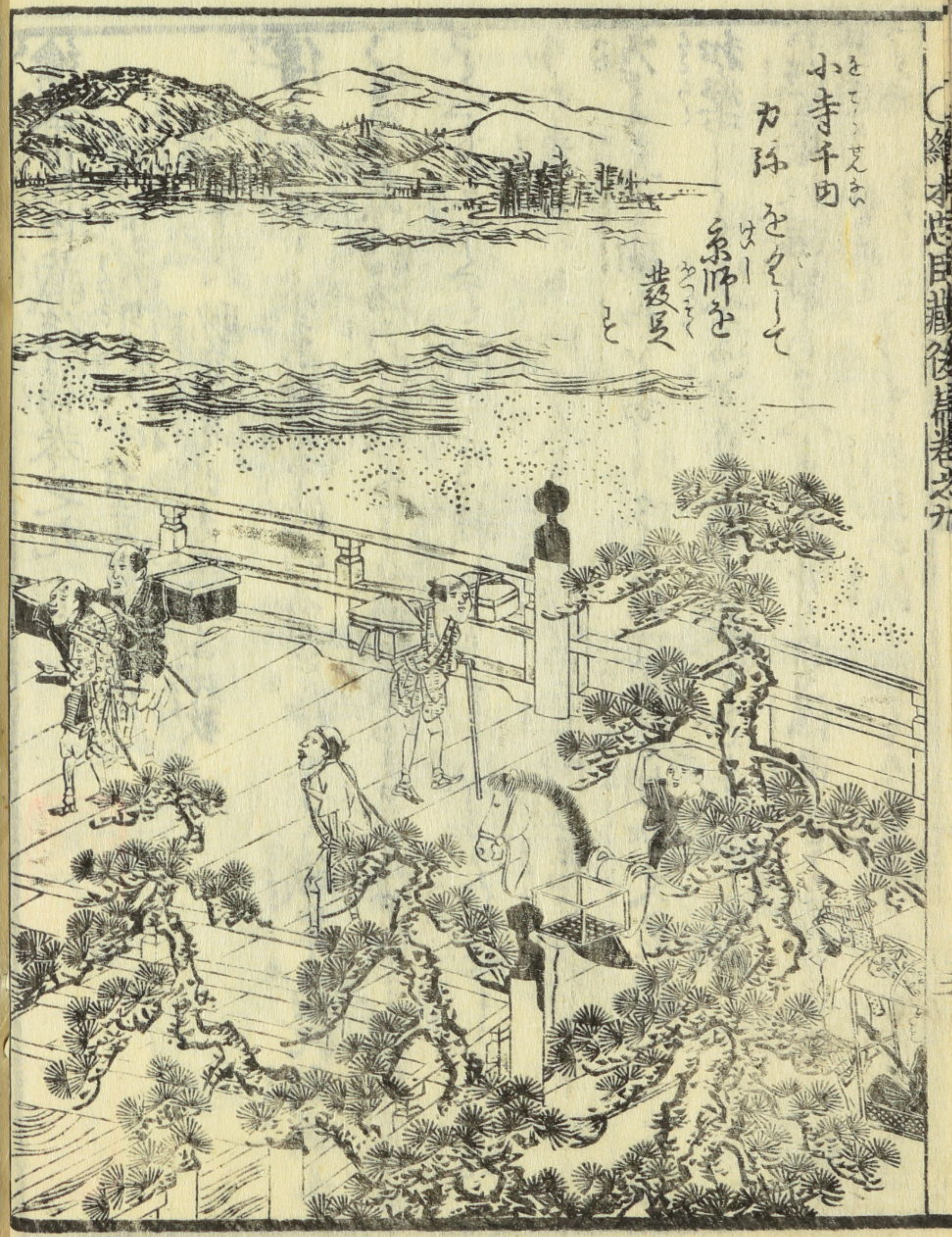
- 片谷市之亟之像
 - 片谷為繼母所誣。同圖
 - 岡野銀右衛門之像
 - 岡野代父殉義。同圖
 - 不破勝右衛門之像
 - 木村園右衛門之像
 - 武森喜多八之像
 - 三村三右衛門之像
 - 包常篤實感動人
 - 千崎弥五郎之像
 - 加藤与茂七之像
- 以上

此大星が小寺の自筆の遺墨を縮換してこれなり

向うたるやえすも鏡あり
 桂乃戸た 癖の松風
 能役ハ至りし乃らし白舟
 吾事ハ流るらぬ
 ナニナニ
 〇



繪本小寺千田



小寺千田
カサ
糸師
数員

繪本小寺千田

肉が骨をあらへ潔く自害一果

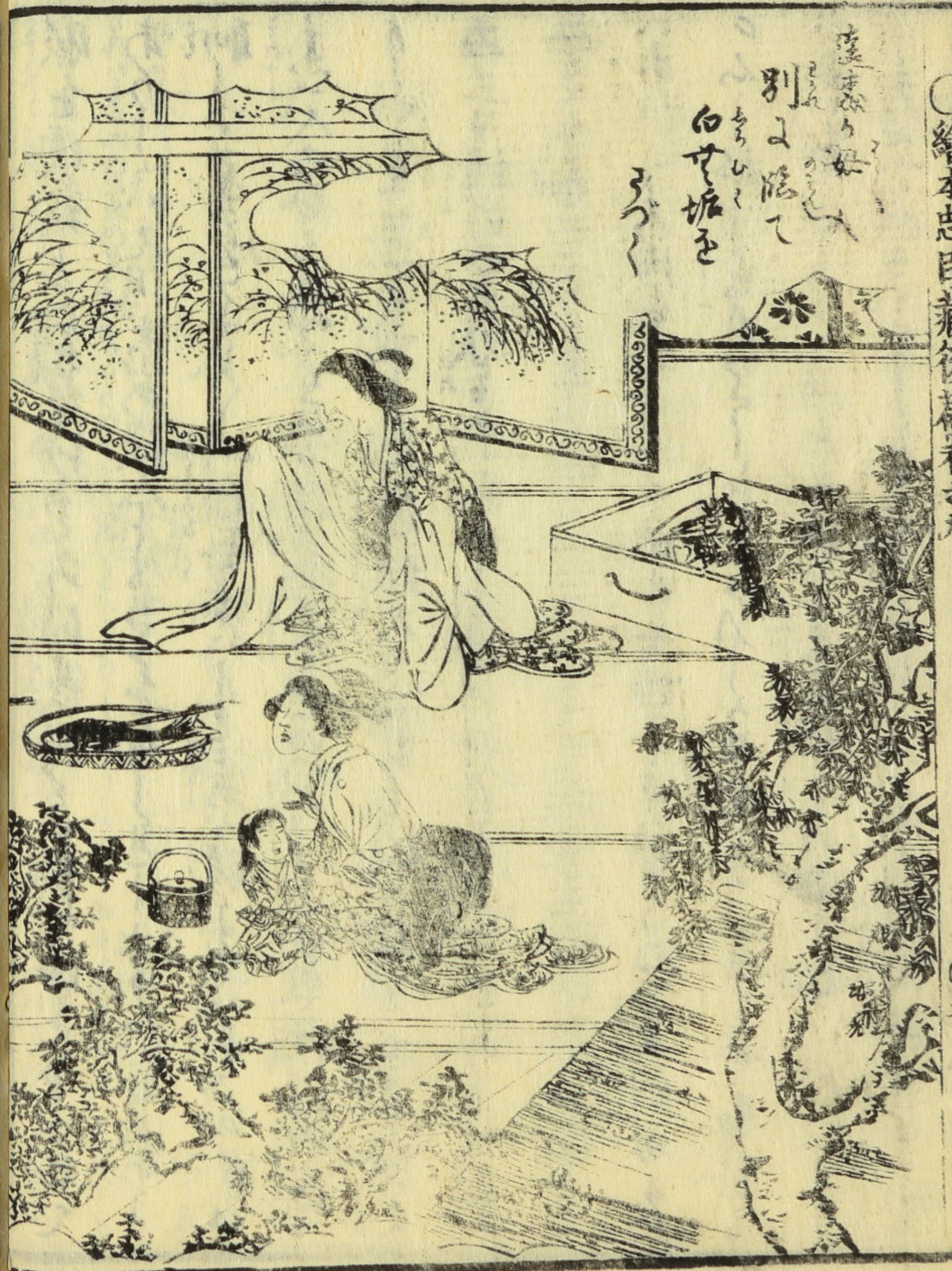
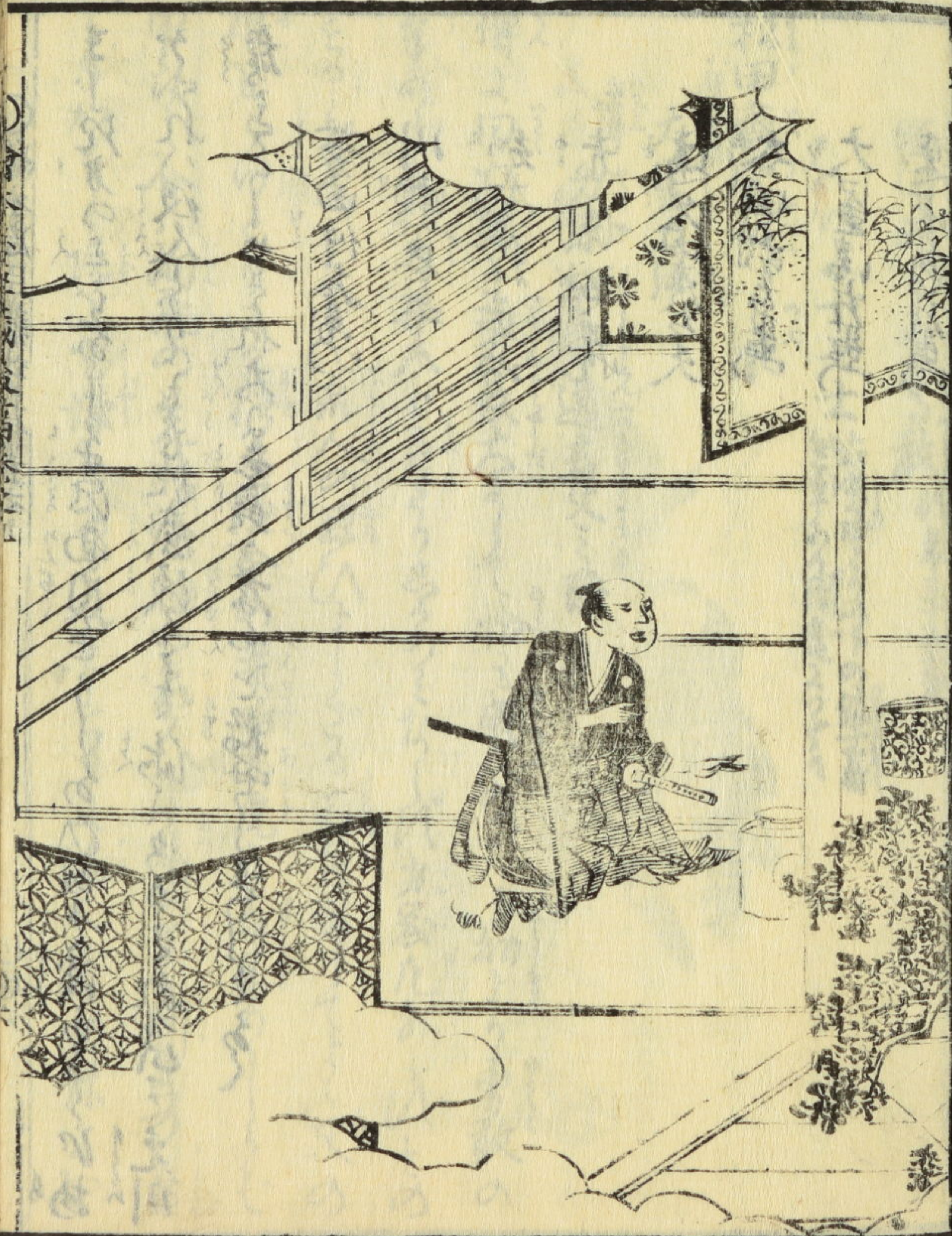
賄賂の所かきの... 賄賂の所かきの... 賄賂の所かきの...

遠藤清経

遠藤清経の孝行

傳曰因性質忠孝三の人の人... 嘗て高貞を世の折や... 法を授けられしに... 程とて七十餘里の如き馬を... たりてを... 傳は長せし... 遠藤清経の孝行

服を頂戴して... ありてえ川... 聊して... 素一人の母をおく... たりや... ぬ三日... 母も... いたひ... のん... うみ... 一...



遠慮り
別は能て
白々垢を
まづ

繪本忠臣蔵後篇卷之九

五

大星力弥之像

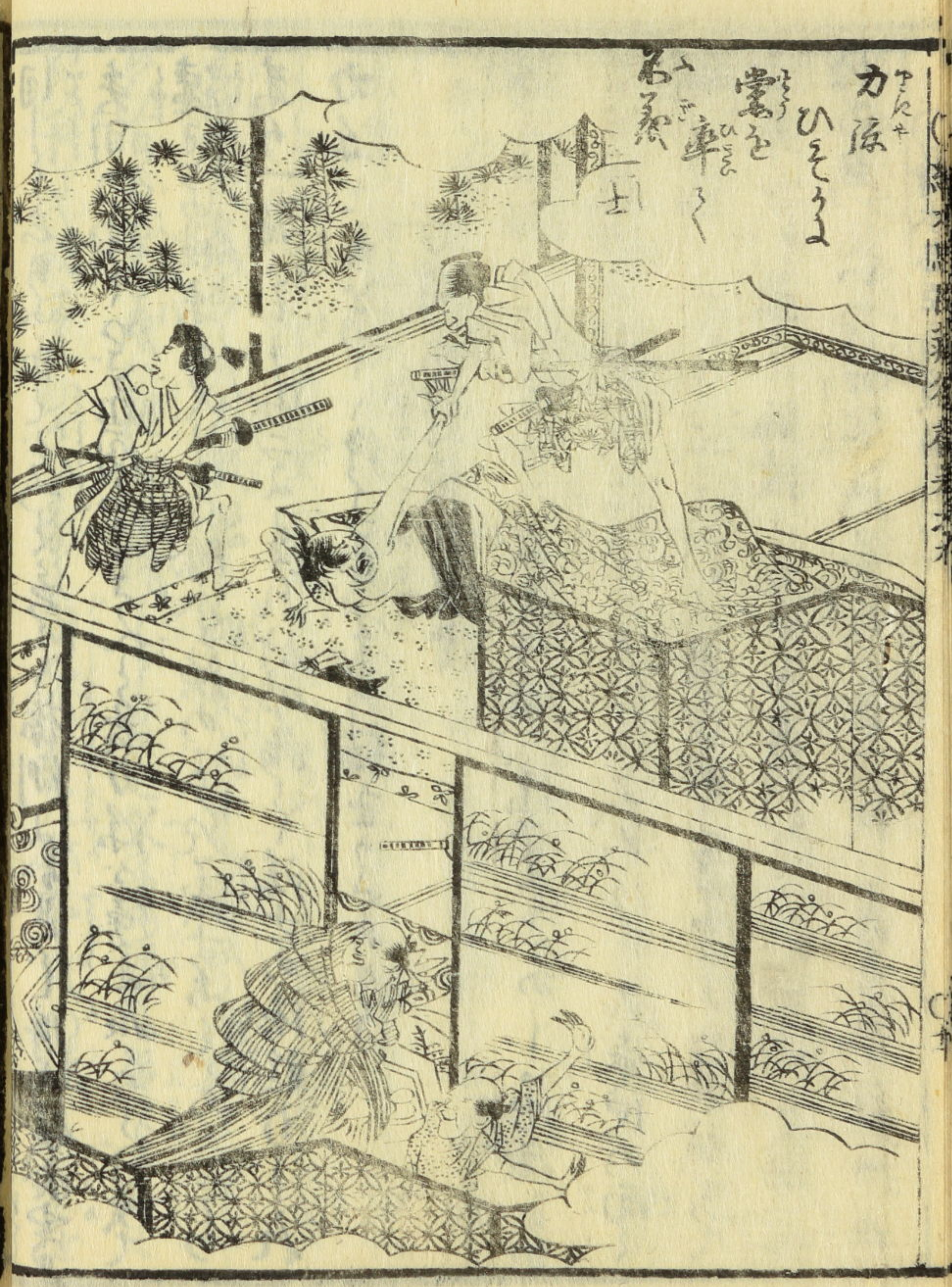
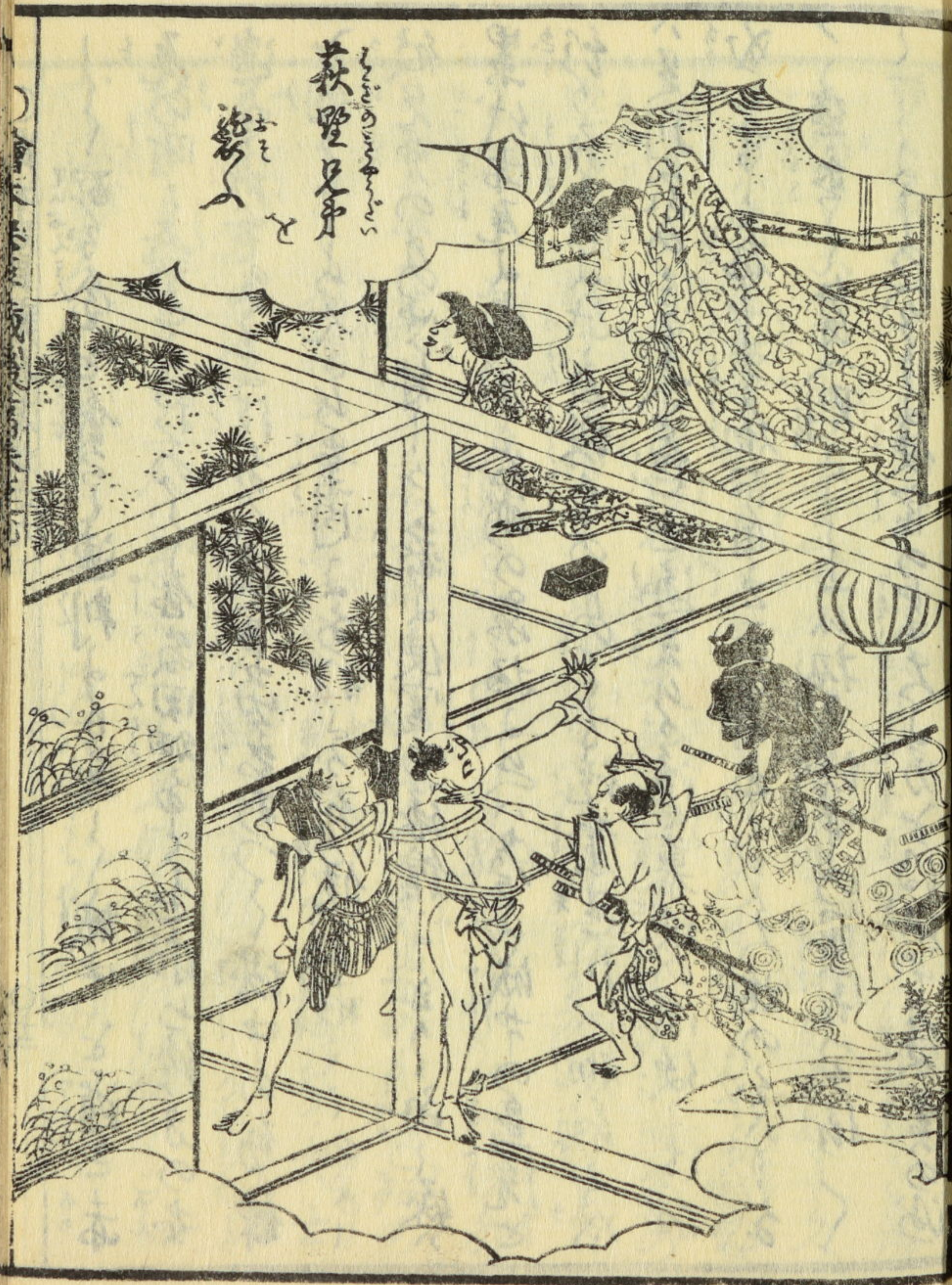
以志學
 年
 懷拔不
 心
 名自標
 尔
 良金



夫の汝よく愛ふかたりて老人(孝親)をそとて一命をせしむ
 治む身しありてか海濱くくくくくくくくくくくくくくくく
 命と省さなむと似れくも素直よ三素の所生を
 奪り下り所(神城)のちく思ひ下りしはも清月よあり身
 くも自(抱)をあひ割清いつくくこの所り清佩刀とあり
 汝成人の後父よりうりて忠勤と励むべしとありし一則
 彼持願の刀は母とそと取りあひ兼成人の後ありし人の
 年を以てあつらひにけりありしは兼後ハるる父の
 けりてあよあしは君の所ありにけりて死を潔くあつら
 ば兼家よして亡君に中流ありしは母ハるるあり
 されきりてよ遠彼刀とありて力海に投げ汝さし

のぼるれば何れぞ歎くも死にたれどあしはやうな依り清
蔵よこれある清軍用令りや軍用のあはれは
のこもいざし只今の内に聖子一人をよそと
儲かるともたれしひいれま難敷の軍にありとも救ふの
事よのてあれは主因よりいざまうありともお事
くは息と救せんものとすい何ぞや良もとれは殉れ
やの或は上役を引受討死せんとも君事のは
しくやうれど平免血をよはる乳臭のお思了
やめ同にうらり死するもうりかたも我にもあし
と修くまゝとあるに死して城の老義のあはれ
及ひる老人の死見をよかすい并まへ思ふと
難後

邪曲の九を夫をかがりてやうれは是と膝し
るお事作まりに九を夫に屬しては後を
ばゆり介らふはあう思ひも今日も清
とくくやたらと人へ死しは長も思ひも
唯此種くしてあるが力除くるとせよ九を夫
より職事老弱のる別は平生の事今日誰
なくおねとあう人の目お唯今乳臭の小
もこれあはれ押しおねとすの抑や七夜
清をよひひや又おははれよひひや老人
と難へあやうしては君の志よまう
御座あはれ孝る孝孫の心は終へは是別
は是別君の仇人



一々 配分令と會うし連判のりきく城中と遁き赤
 尾の町とつらつらわめくを友田畑をともおと終身の安
 逸を計てさうさ後めく使官あつて城中の動靜
 と伺うさうらんさ業因にあれさう存候とおのよし
 彼兄弟のめの中付くハ委又使官の旅館さまりあつて
 累代赤尾よあつて火城のあつてハたう城下の島流と
 形うあまのよけ及城中のめくも流業ま刑の初め及
 ハ是利家のこころと怒と流業の後日幕使の使つてお
 めりすくおと初百回を二百回さう大砲のさハるさ
 へ、盜さくいぬ人則さう上は扱入城中の用害ハ依く
 してさうのさうさ使官のさうさ力とるは出て復業のめ

けよ及がさうさありさ二人のめくさうささびえいたうさ
 をゆさうささささささささささささささささささ
 一々 要とささささささささささささささささささ
 存多ハ矢間重を所松村中を夫知賀お文ハあんど血音の
 逸確は須塚中を活さうさ積替したハ何をとおおや
 さおさうさなれば力海をさうさめか一夜さうささささ
 又出直よおおおささささささささささささささささ
 ともあく搦捕おの目累代のさ息と仇さささささささ
 石義士のめさうさささささささささささささささ
 おくさかおささ二人のさも魂もあつてさささささ
 さ伏まらび復さうささささささささささささささ

繪本忠臣蔵後篇巻之九

〇五



其二

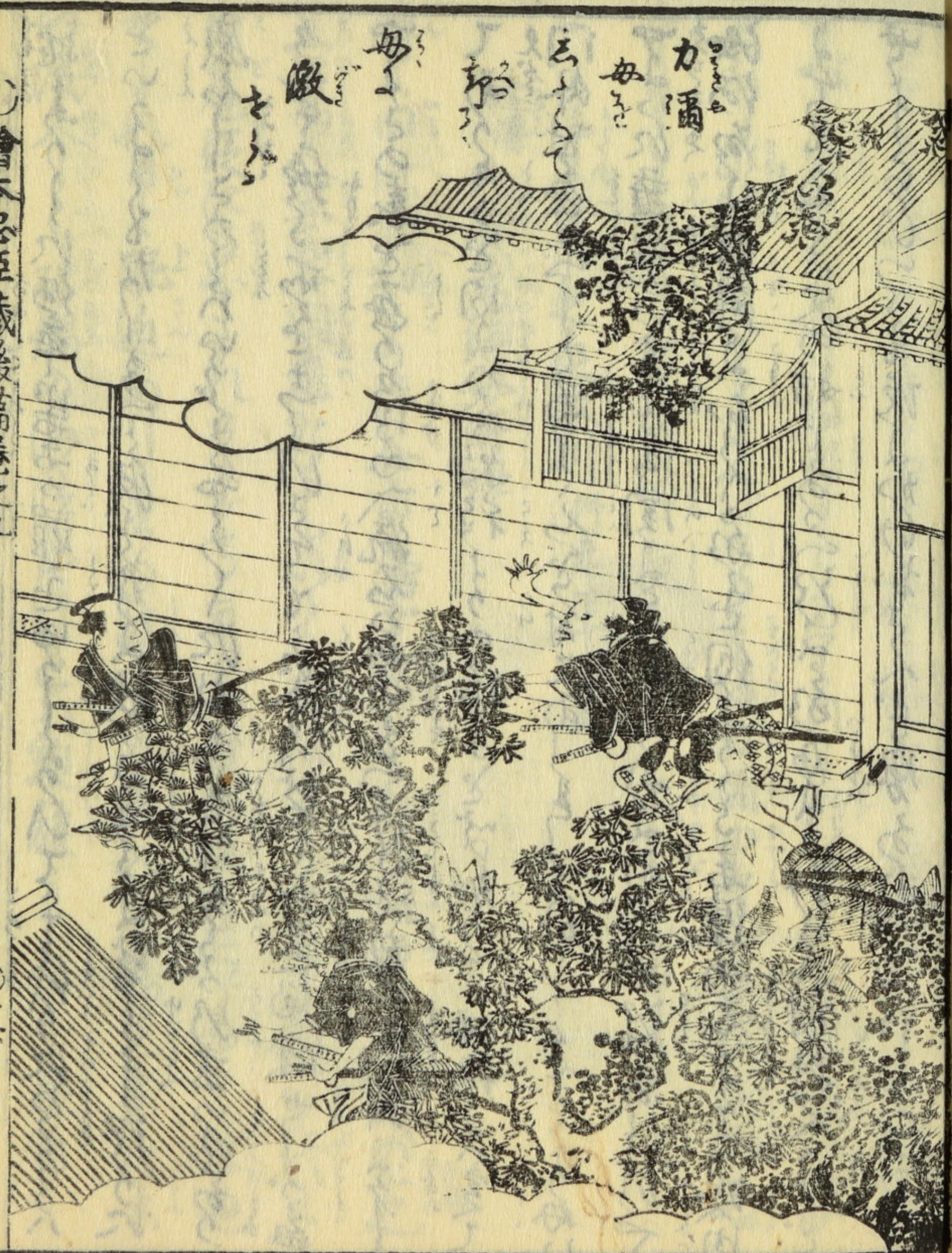
忠臣蔵



忠臣蔵

三

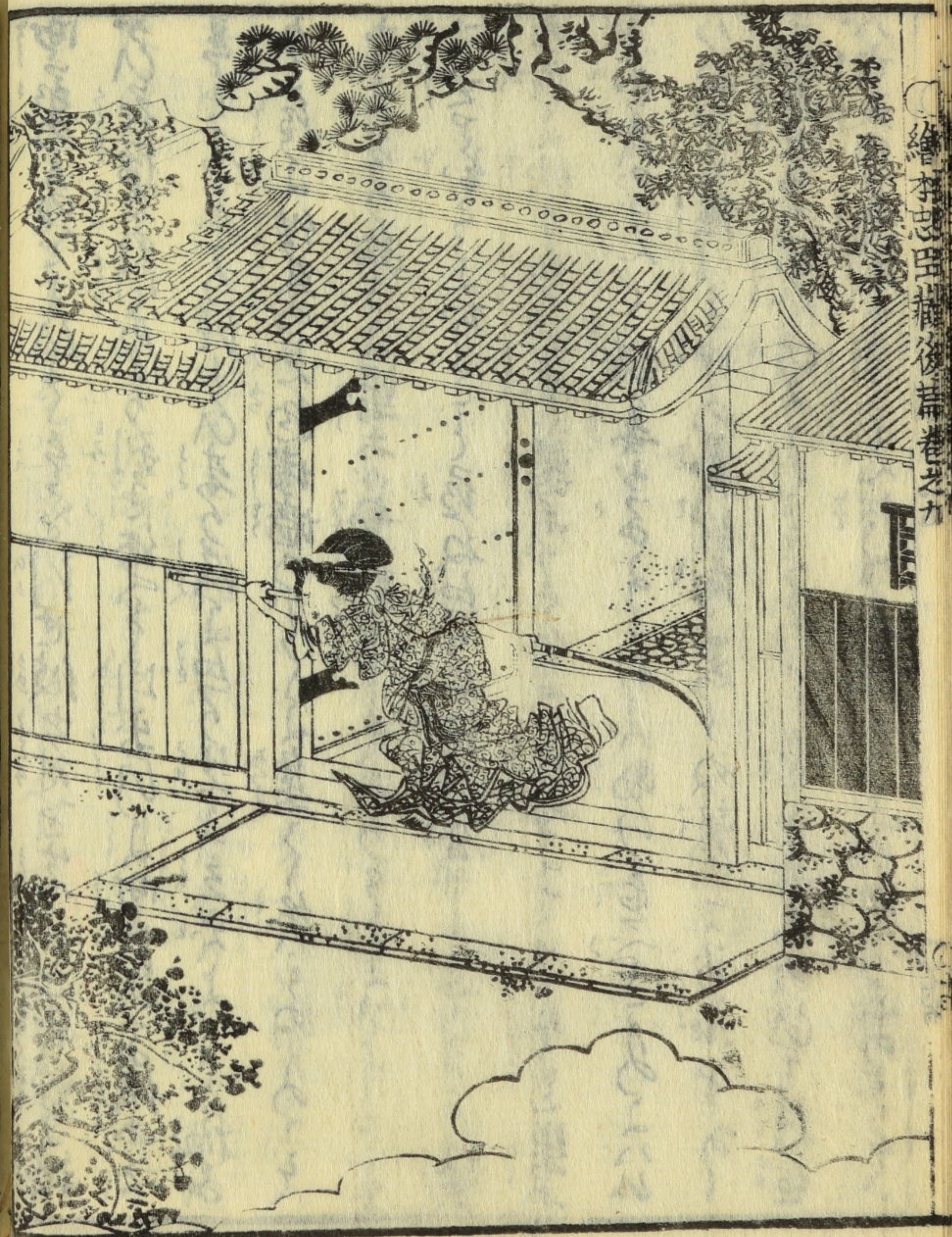
繪本忠臣藏後篇卷之九

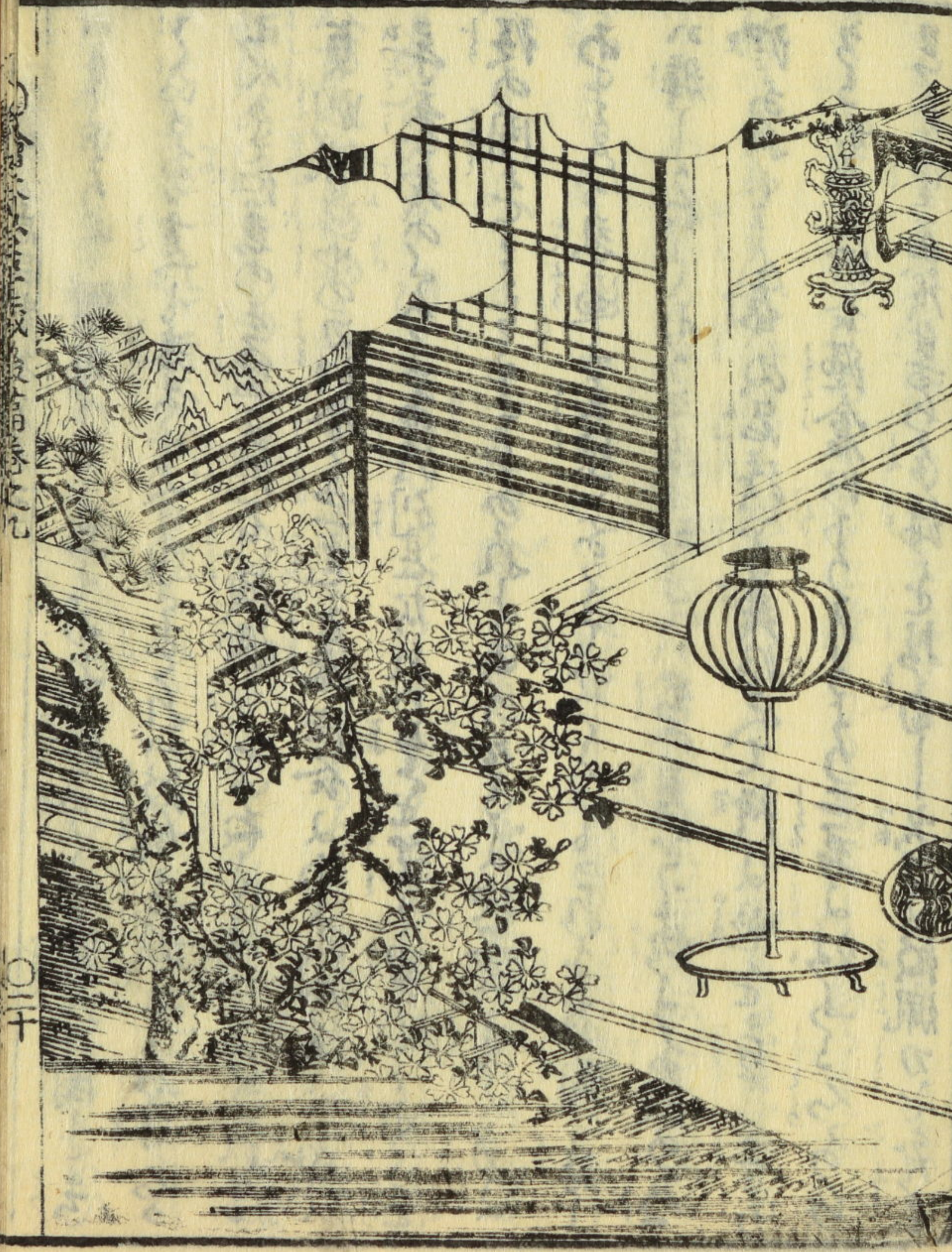


力酒
かき
かき
かき
かき
かき

〇十六

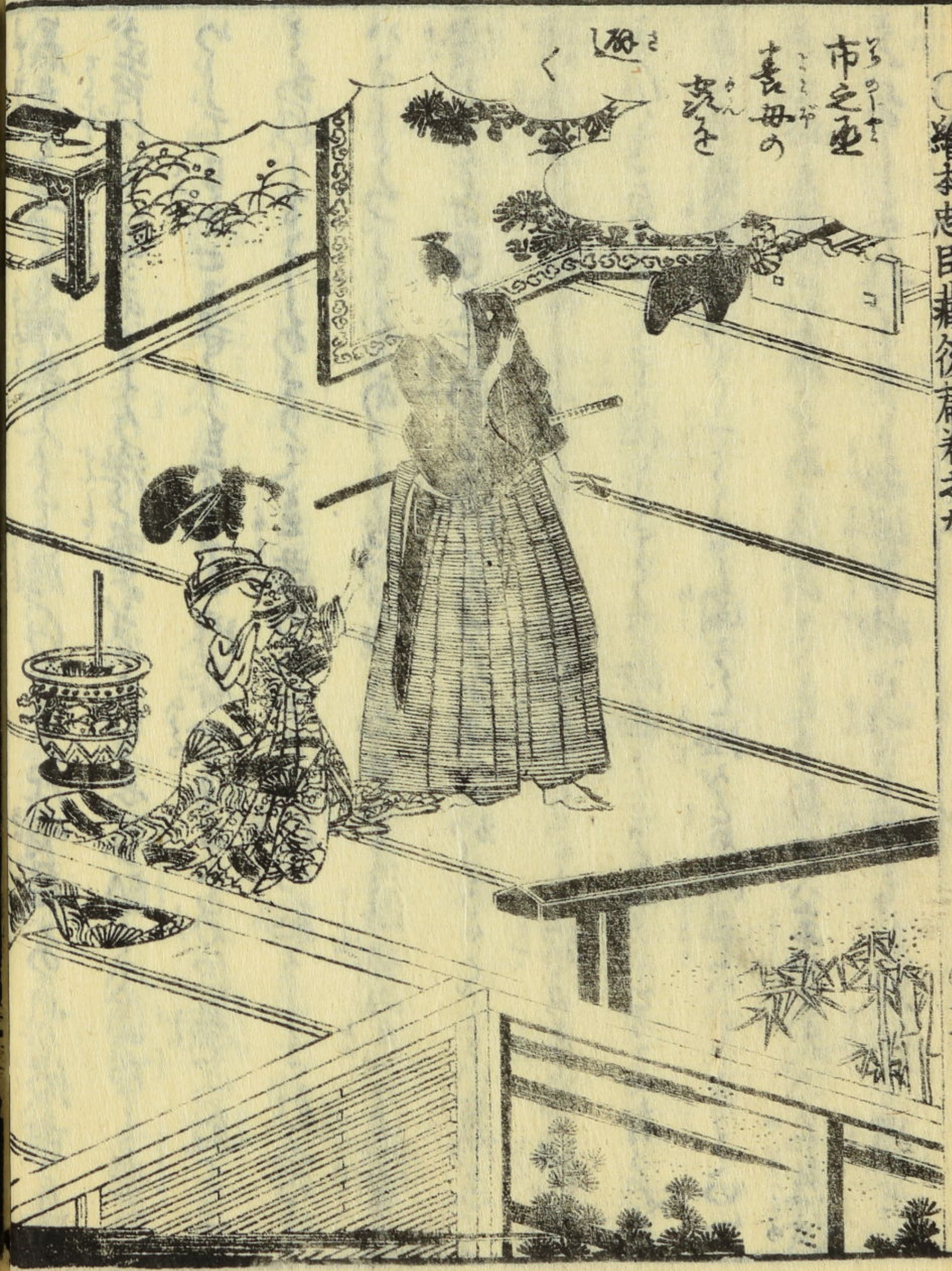
繪本忠臣藏後篇卷之九





江戸時代

十



市之座
長母の
姿を

繪本志目新後篇卷之六

入るハ大星や赤業ド一筋くよそを思ひ出さず
隆岡はかく對面と云ふ年久くもあはざる雨に
まよ一列の後の接収おろり一六市思彼金と云ふ一國
えを逐電の後の鎌倉よと越み年一は及田ひすひとあ
清軍害二念骨能く激し一速鎌倉より一同志の業も是
あへハ一所を返へりけり一誰入る知りたる人おけまをを
あへて後と志し一もるぐも志せり一越意もるハり
もけり一諸城をどの山を越もり及むびあぐせりハ持の
一五中ありともあり勝よく討たはせんねん思又け金子ハ御あ
が軍用のたしもおわつた業又は志がびくハ中を介
逐一もる仲押し移入るも後のも神子逐りハ中たし
くも先く先軍代のいも油もこれあまを金子ハりより
うび且且利おの思も諸城をどの思ひもよびより
このつよもせよ赤尾ハかろりよびとねまもあへて人神のあ
と門入流業せりあへて風種ありてハ七名の山をの流まはる
の思入よりては後ハ思ひもよびとねまもあへて人神のあ
よびとねまもあへて人神のあ
はるるも逐電ハいせもあへて人神のあ
因あがる他授山岡よりけりよびとねまもあへて人神のあ
父市常海証せり御言負より持願せりよびとねまもあへて人神のあ
がらりなりと云ふ大星もあへて人神のあ
のがらりの切ある一教感歎しよる中端あるハ何んをうて

がひりえんと号する珠中より遠回志の如くも若くは
 に義徒の列よりかちんたり

畠野沼の重の包秀 行年二十有年

畠野代父殉義

傳曰畠野始ハ九十部ト稱シ其父沼也其毒尾離散の折
 ら畠野ヲ携ヘ京師ニ來リ大星ト因縁シテ復仇ノ事ト謀
 りけるが大星ハ仁本ノ取の同者ヲ諒シ人々ヲ濡酒日々其
 一ノ好快ニもろりたりたりと解るるは母儀内を以てし
 ことかハまず義徒ハ死と備てつて人々或ハ物或て生じ
 是よりつて終つて死に臨り黨とつてのにもあつたり
 元春因舎名義實の偏度老人何れと号する道主人包秀と号

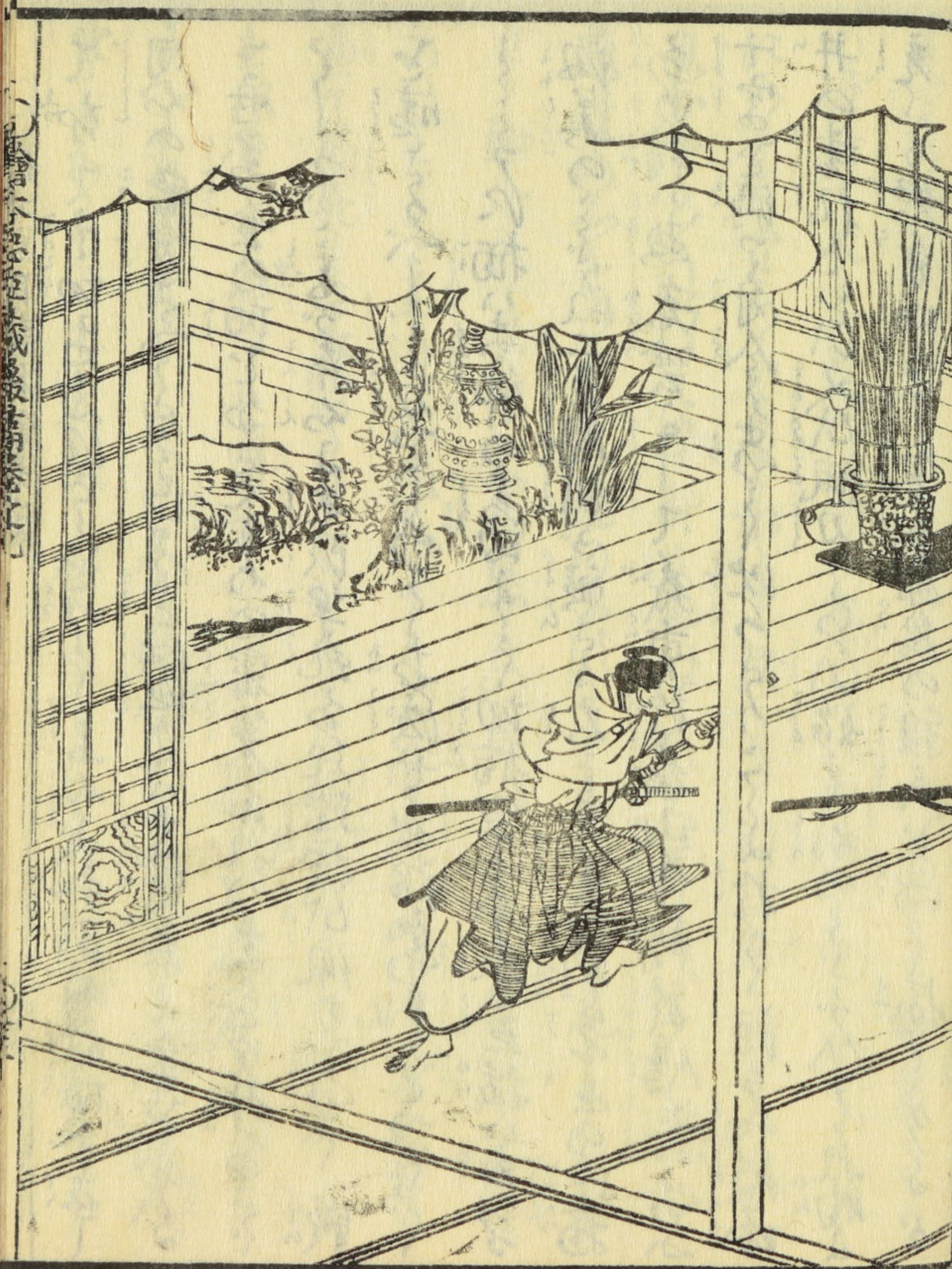
岡野銀右衛門之像



繪本忠臣蔵後篇卷之九

くつげハ汝も定く見せつらん人非人の大星父を尋ら
立越存分面打ちせし上討果に所存あれば汝も必に
返ひ来りしは後なるもわづらひし時後詰さるべし
直におき山科にあり玄園より言せしに尋らりし大星父
子の大士何處にありと自れが家の内のみどもちよ尋らりし
うらりし是母が難云命息にねば事違ふこと申され今よ
報せしは時大星の宿願よくお申せしうらりしがかくし
より起ちて別室より招きしを何事かと尋らりしは是母
ハ汝の夢と思へし同盟の士汝が指揮よ志せし日招き
ふ辛万苦してまゝ命と定めしはこれ汝の宿願よく
一箇の義とて思へしにうらりてあり侍らんとせしは

大星の義にまよひお國の恩義とてこれ盟血を
さすよちまら流んとする人畜生謀るは刀の切味試まよ
し能まぐ難く一抜お又切付はバ大星をうらりしとハし
ま獲ひよ捨てハ一とてありしはよらりしにうらり入
と入りしは汝のバ家トよおわく亡者なりとよま事秘と
とらざるうらりハ秘めし汝とて生かされしと又も
うらりて河也刀大星をうらりてゆえにうらりしにうらり辭
ちらのせしハ老人の老ありしとまらりし月日をむあしうたの
ゆえんはととて披見せしとて同者の二件堀井よ
アアとてうらりしとて投お一敵方討よや氏の用いあれ
ハ容易よ本懐を達せしとてかきうらりしは事と急せ



以服其
野父子
大野と

繪本忠臣蔵後篇卷之九

（然るに忠臣蔵の事）

早せきしる事知せりしる好しよとむらねばらむらね
げんお聴取終りしる後絶え入り九十九に悲歌しるは物笑
しつありたるが大屋監書とむらねく是野く氏父よか
び忠勤あましくこれよりせむ岡野政あぐらおし
現則是刺とありて一列に加りりも活き馬しおし
父の忠義しつ終りく通念よあつても敵地の縁書とあり
おし流よとる巻とさるハあしむら

堀井安房武庸 行年三拾五歳逸半ハ海清舎丸の系下れ
不破勝重山種 行年三十歳正種松村の物カ打の切名三士
本村園右重行 行年四十歳正種武田の人物しつ松村の
村はうれしむら
あ書むむら

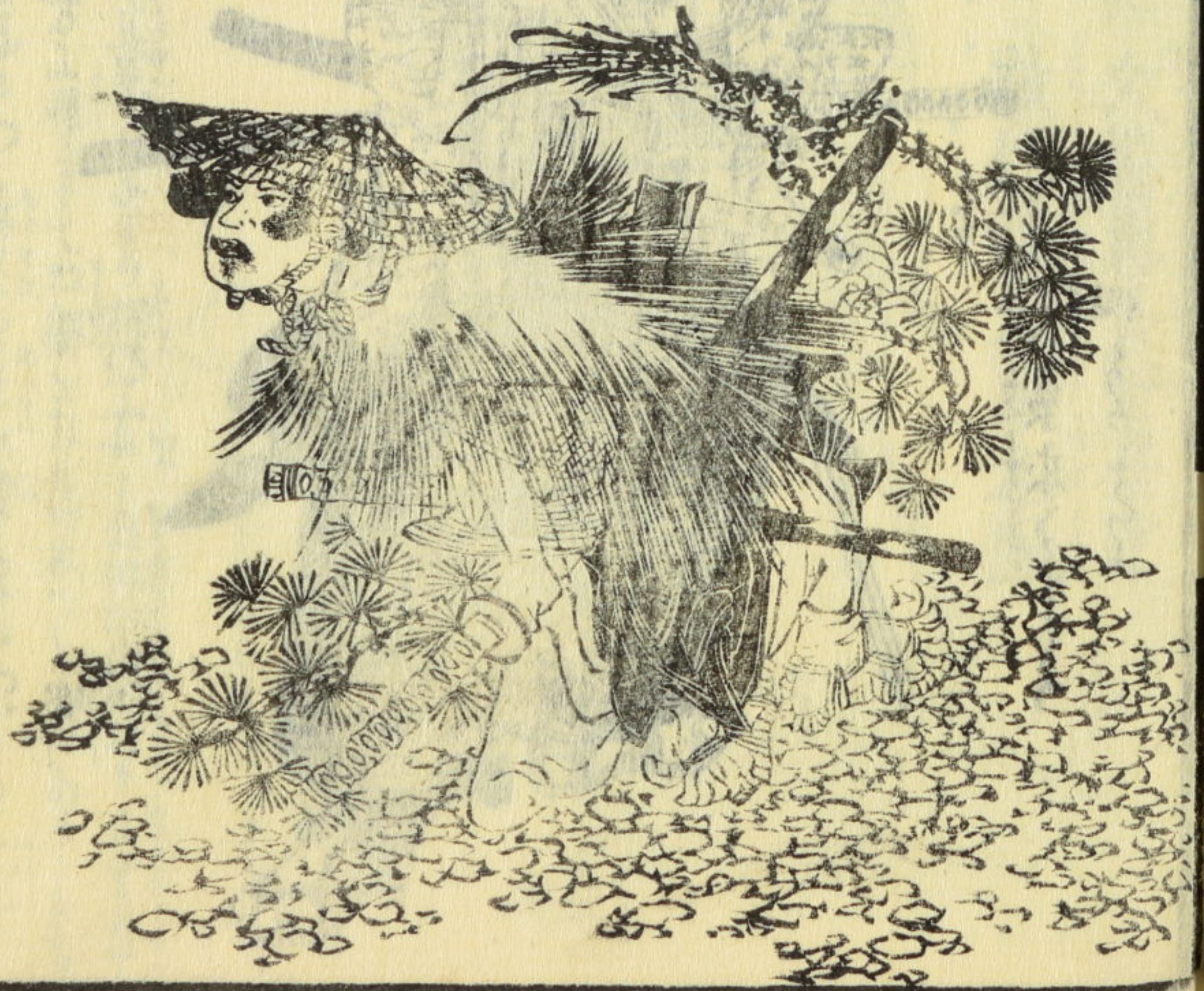
不破勝右衛門之像

劍氣凌

北斗

雄威吞

東國



木村園右衛門之像

會入

三十一

新本忠臣蔵巻之九

木村園右衛門之象

武士の道



死出の山仔了

他は良来り

身寄浮雲滄海東

看花對酒無窮恨

千場三郎彦

村中勲介

大鷲文吾

油賀八右衛門

以上十人 木村園右衛門の同僚

大村方系部

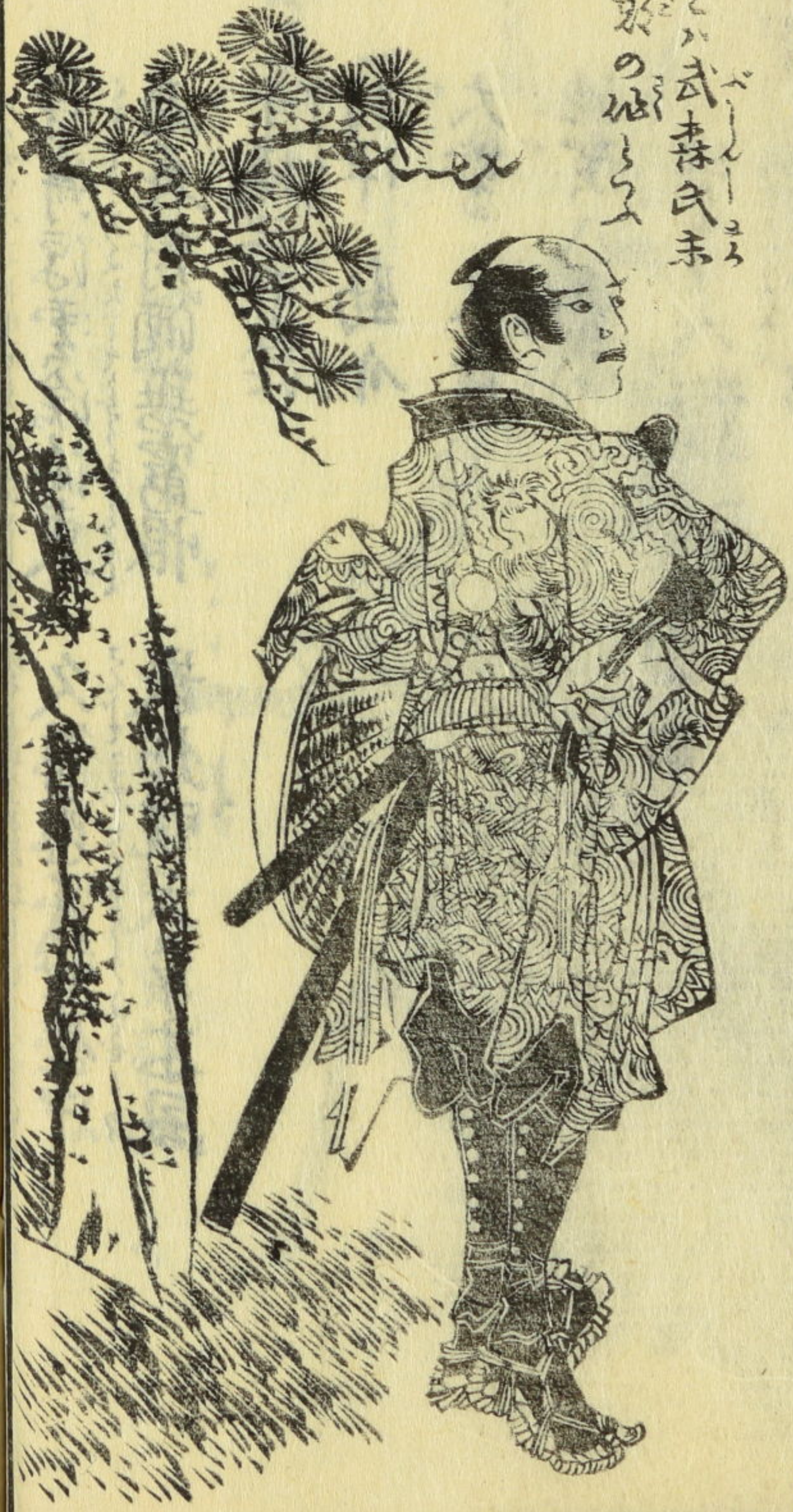
武蔵流

其流の祖と云ふは... 相傳ま... 解任... 世に...

武藏喜多八之像

三平手某一愛中捨生取
義策人日雙親病切
郷在在養志悲身安志

武藏喜多八
の像



武藏喜多八は、母の病を養ひ、父の仇を討つて、名を立たせし者なり。其の母、病に臥し、喜多八は、母の病を養ひ、父の仇を討つて、名を立たせし者なり。其の母、病に臥し、喜多八は、母の病を養ひ、父の仇を討つて、名を立たせし者なり。

武藏の母は、病に臥し、喜多八は、母の病を養ひ、父の仇を討つて、名を立たせし者なり。

黒橋傳介
松村吉平
松野九平次

勝田五郎左衛門
麻呂五郎左衛門
矢間初八郎

小寺孝七郎
以上十人
溝尾将監次之部

繪本忠臣蔵後篇卷之九

千崎弥五郎之像

亦是大
虚月一
團
怒雷迅
雨甚無
端
陳清
風雲霽
後
亦是太
虚月一
固



この世は
いかに
の世なり
と云ふ

加頭与茂七之像



加頭
与茂七

加頭
与茂七

加頭
与茂七

加頭
与茂七

續志臣職後居者之元

〇三

加須与茂七

松村半左夫

川原彦九郎

早野海介

三川勘清

多崎海兵衛

以上九人

加須老母よつて別居する。此後が元。早野海介は海軍少将。三川勘清は海軍少将。多崎海兵衛は海軍少将。松村半左夫は海軍少将。川原彦九郎は海軍少将。早野海介は海軍少将。三川勘清は海軍少将。多崎海兵衛は海軍少将。

續本右臣職後居者之元

44264

